

東松島市立幼稚園及び小・中学校の学力向上に向けた授業日数の増加について

東松島市教育委員会 学校教育課

1 趣旨

- (1) 震災以降の全国学力・学習状況調査の結果等によると、東松島市の小・中学生は、全国・県の平均正答率を下回る状況にある。学力向上に向けた全般的な底上げや下位層に対する改善策を早急に対応する必要がある。併せて、家庭生活を含めた基本的な生活習慣の確立や学習習慣の形成に対する手立ても必要である。こういった状況を踏まえ、学力向上の具体策を早急に展開することが喫緊の課題となっている。
- (2) 新学習指導要領の実施により、小学校指導時数の増加（3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科）が見込まれる。移行期に当たる平成30・31年度は小学校3～6年生において各15時間、完全実施に当たる平成32年度以降は各35時間の増加となり、授業時数の確保が必要である。
- (3) 中学校において指導時数の変更はないが、中学3年生をはじめ余裕のない状況であり、より個に応じた指導や学習内容の定着及び習熟を図るうえで、授業時数の確保は最重要である。
- (4) 以上により、東松島市の小・中学校における学力向上策として、授業日数の増加の措置を講ずる。併せて、教職員の教材研究等の時間確保や事務負担軽減等にも資するものとする。

2 具体的方策

- (1) 「東松島市立学校の管理に関する規則」第3条(4)を改正し、幼稚園及び小・中学校とも夏季休業を4日間短縮する。
(改正前) 夏季休業日 7月21日から8月25日まで
(改正後) 夏季休業日 7月21日から8月21日まで
- (2) 今年度まで授業日扱いとしていた「東松島市総合防災訓練」は、授業日としない。ただし、地域の防災活動に児童・生徒の参加を促す。また、学校で授業日に行う防災訓練（避難訓練）に保護者や地域の活動も取り入れた訓練にするなどの工夫をする。
- (3) 以上により、授業日数を今年度までに比較し5日間増やす。

3 今後の対応

- (1) 各学校では、授業日数の増加を踏まえ、学校行事の精選等を図りつつ適切な週時程の設定や教育課程（カリキュラム）の編成を行う。
- (2) これらについて、各校とも職員会議等で教職員へ周知を図る。また、1月末までに、学校だより、保護者会、PTA役員会、学校運営協議会等の場を利用して保護者、地域の方々へ説明し理解を得る。
- (3) 教育委員会では、1月の定例教育委員において承認を得たうえで、「東松島市立学校の管理に関する規則」を改正し、各学校へ通知する。
- (4) 今後の学力向上への取組については、各中学校区を母体として工夫、改善に努める。特に、小・中連携を視野に入れた9年間を見通した指導体制づくりを行うとともに、増加した日数の効果的活用に努める。また、研修会をはじめ、市全体として児童・生徒の生活習慣の確立を含めた学力向上の推進機関を設定して取り組んでいく。
- (5) 特に、新学習指導要領により必修化される、外国語（英語）教育及びプログラミング教育については、教育委員会主催の教職員を対象とした研修会を来年度各2回ずつ実施し、指導体制の構築に取り組んでいく。

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

について

東松島市教育委員会

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

平成29年4月18日（火）

3 参加児童生徒

東松島市内の小学校6年生（354人）、中学校3年生（379人）

4 調査結果による全体的傾向の概要

(1) 教科に関して

小学校の国語はA・Bとも県及び全国の平均正答率をやや下回っているものの、昨年度に比べ数ポイント縮め、県及び全国の差はだいぶ小さくなり、経年変化を見ると、この5年間でもっともよい結果と言える。算数はA・Bとも国語に比べ県・全国の平均正答率よりもやや下回る傾向が見られるが、経年変化を見るといずれも昨年度より差が縮まっている。

中学校の国語はA・Bとも県・全国の平均正答率を大きく下回っており、昨年度に比べ大きく差が開き、領域別に見ても、すべての調査項目で県・全国を下回っている。数学A・Bは、国語以上に県・全国の平均正答率を大きく下回っており、分かる授業に向けた改善及び学習環境の整備、家庭との連携が必要である。

※ 平均正答率…各児童生徒について全設問における正答数の割合を算出した値（個人の正答率）を足し合わせ、児童生徒の人数で割った値のこと。

(2) 生活習慣等に関して

基本的な生活習慣に関する事項では、昨年度よりもやや改善された事項もあるが、全体的な傾向は昨年度とほぼ変わらない。

本市の小・中学生の平日の家庭におけるテレビやビデオ、DVD等の視聴の時間及びゲームをしている時間、スマートフォン等を使用している時間は依然として高い数値を示し、県や全国と比べ長いことが分かる。中学生の場合、3時間以上の長時間の割合が昨年度に比べだいぶ高くなっており、特に、ゲームに費やす時間は小学生よりも多いという結果であった。

(3) 教科と生活習慣等の関連に関して

決まった時間に就寝・起床することといった家庭における基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒、朝ご飯をしっかりとっている児童生徒、テレビ等の視聴やゲーム、携帯電話・スマートフォンを使用する時間について節度を守っている児童生徒は、そうでない児童生徒と比べ、どの教科においても正答率がおおむね高い傾向が見られる。

また、将来の夢や目標を持っている児童生徒も、正答率が比較的高い傾向が見られる。

(4) 自尊感情・規範意識等に関して

小学校は、全般的に昨年度よりも高い(肯定的な)数値を示しており、自尊感情及び規範意識は適切に育まれている様子が見られる。特に、昨年度、県や全国より低かった「自分にはよいところがあるか」「学校のきまり・規則を守っているか」の質問は10ポイント前後も高くなり規範意識の向上が見られる。

中学校は、県や全国よりも低い結果となったが、「人が困っているときは進んで助けているか」の質問は若干ではあるが県や全国の平均を上回った。

5 調査結果(データ)の概要

5-1 教科に関する調査結果

(1) 正答率一覧(単位%)

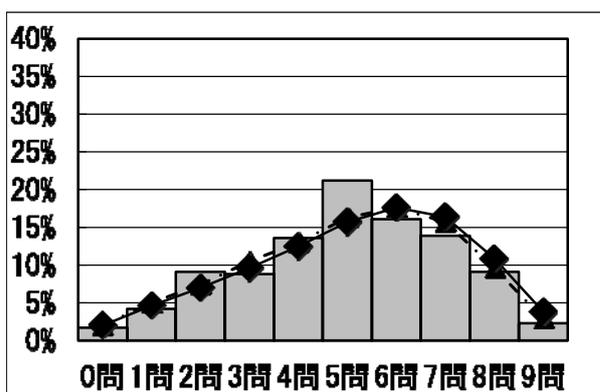
		国語「知識」に関するA問題		国語「活用」に関するB問題	
		29年度【前年比】	28年度	29年度【前年比】	28年度
小 学 校	本市	73.0【+5.2】	67.8	55.0【+3.7】	51.3
	県 (県との比較)	74.0【+2.0】 (-1.0)	72.0 (-4.2)	56.0【-0.2】 (-1.0)	56.2 (-4.9)
6 年	全国 (全国との比較)	74.8【+1.9】 (-1.8)	72.9 (-5.1)	57.5【-0.3】 (-2.5)	57.8 (-6.5)

中 学 校 3 年	本市	70.0【-5.9】	75.9	64.0【-1.2】	65.2
	県 (県との比較)	77.0【+0.1】 (-7.0)	76.9 (-1.0)	73.0【+5.1】 (-9.0)	67.9 (-2.7)
	全国 (全国との比較)	77.4【+1.8】 (-7.4)	75.6 (+0.3)	72.2【+5.7】 (-8.2)	66.5 (-1.3)

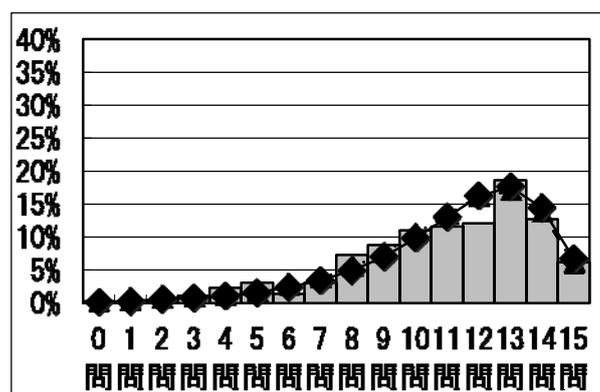
		算数・数学「知識」に関するA問題		算数・数学「活用」に関するB問題	
		29年度【前年比】	28年度	29年度【前年比】	28年度
小 学 校 6 年	本市	75.0【+3.5】	71.5	40.0【-0.4】	40.4
	県 (県との比較)	77.0【+0.5】 (-2.0)	76.5 (-5.0)	44.0【-1.6】 (-4.0)	45.6 (-5.2)
	全国 (全国との比較)	78.6【+1.0】 (-3.6)	77.6 (-6.1)	45.9【-1.3】 (-5.9)	47.2 (-6.8)
中 学 校 3 年	本市	53.0【-4.4】	57.4	37.0【-3.5】	40.5
	県 (県との比較)	63.0【+2.6】 (-10.0)	60.4 (-3.0)	47.0【+3.2】 (-10.0)	43.8 (-3.3)
	全国 (全国との比較)	64.6【+2.4】 (-11.6)	62.2 (-4.8)	48.1【+4.0】 (-11.1)	44.1 (-3.6)

(2) 正答数の分布

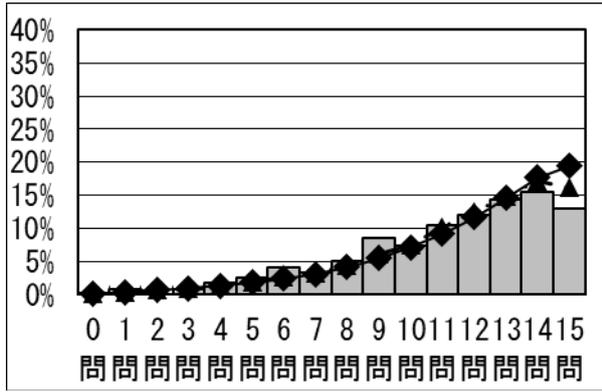
本市 ■■■■■ ---▲--- 宮城県 —◆— 全国 縦軸…人数割合 横軸…正答数



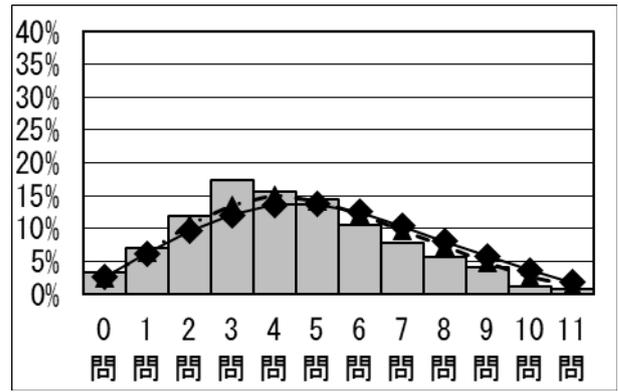
小学校 国語A問題



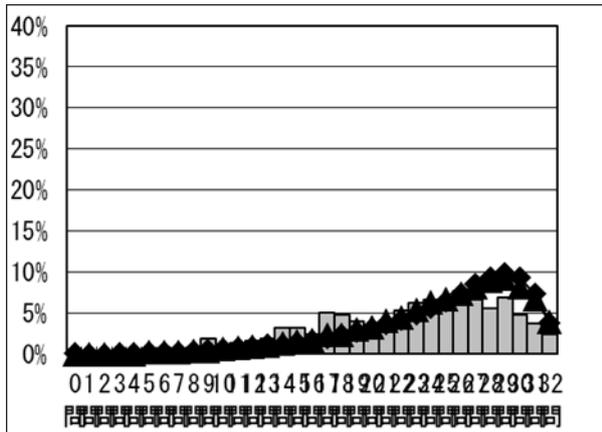
小学校 国語B問題



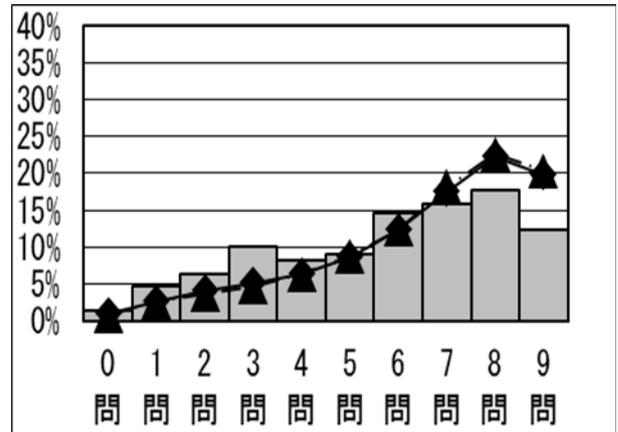
小学校 算数A問題



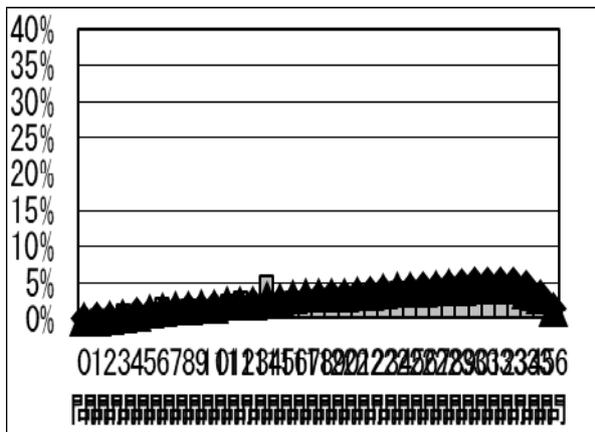
小学校 算数B問題



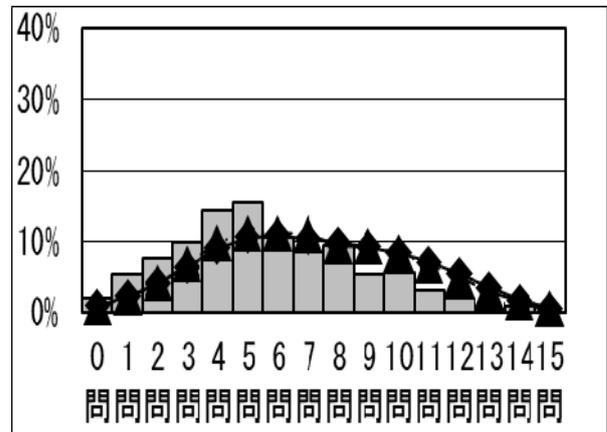
中学校 国語A問題



中学校 国語B問題



中学校 数学A問題



中学校 数学B問題

(3) 各教科の調査結果に見られた主な傾向

※この調査結果は、今回出題された学習内容に対する結果であり、「学力」すべてを言い表しているものではありません。また、結果についても、学校における教育活動における一側面をとらえたものです。

凡例：○：おおむね定着している主な学習内容 ●：定着が不十分と判断される主な内容

【小学校国語】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと。
- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと。
- ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること。
- 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えること。
- 目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すこと。
- 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと。

【小学校算数】

- 具体的な問題場面において、乗法で表すことができる2つの数量の関係を理解すること。
- 2つの数の最小公倍数を求めること。
- 小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解すること。
- 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断し、その判断の理由を記述できること。
- 仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できること。
- 割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶこと。

【中学校国語】

- 目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめること。
- 文章に即して漢字を正しく読むこと。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。
- 表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと。
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解すること。
- 相手に分かりやすいように語句を選択して話すこと。

【中学校数学】

- 平行移動した図形をかくこと。
- 事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明すること。
- 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明すること。
- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

5-2 学習や生活習慣の様子について

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

[単位%, ()は県との比較]

質問事項			小学校	中学校
1	国語の勉強は好きですか。	H29	56.9 (-2.9)	55.4 (-6.2)
		H28	56.8 (-1.3)	58.8 (-2.2)
2	国語の授業の内容はよく分かりますか。	H29	79.1 (-2.9)	64.9(-10.3)
		H28	79.6 (-0.7)	70.0 (-5.4)
3	読書は好きですか。	H29	66.5 (-6.7)	65.5 (-6.6)
		H28	66.0 (-8.7)	72.0 (-0.1)
4	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか。	H29	58.1 (-8.0)	50.4(-11.6)
		H28	53.9 (-10.7)	54.0 (-8.7)
5	算数・数学の勉強は好きですか。	H29	58.6 (-7.0)	46.7 (-8.3)
		H28	61.1 (-5.2)	60.0 (+4.7)
6	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。	H29	76.2 (-3.9)	56.5(-11.3)
		H28	71.5 (-8.1)	70.2 (+2.5)
7	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	H29	69.2 (-0.6)	41.9 (-5.9)
		H28	61.1 (-7.8)	41.8 (-1.3)
8	算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	H29	82.8 (-3.1)	79.7 (-1.9)
		H28	79.6 (-5.4)	81.7 (+0.6)

※国語や算数（数学）の勉強が「好き」と回答している小・中学生の割合は、昨年度と比べ県との差が大きくなりました。しかし、小学校算数の「授業内容の理解」「学習したことの活用」「ノートの活用」については昨年度と比較すると県との差が縮まりました。教師一人一人が「学力向上に向けた5つの提言」（宮城県教育委員会）を理解した授業づくりと小中の連携を大切に、9年間の継続した実践となるよう努めて参ります。

(2) 基本的な生活習慣, 家庭生活, 家庭でのコミュニケーション

[単位%, ()は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	朝食を毎日食べていますか。	H29	94.3 (-1.5)	92.1 (-1.8)
		H28	94.2 (-2.1)	91.9 (-2.6)
2	毎日, 同じくらいの時刻に寝ていますか。	H29	78.2 (-4.9)	75.7 (-3.8)
		H28	78.7 (-4.3)	75.7 (-3.6)
3	毎日, 同じくらいの時刻におきていますか。	H29	90.9 (-0.4)	87.9 (-5.1)
		H28	87.6 (-4.1)	91.4 (-1.4)
4	普段(月~金曜日)1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ, DVDを見たり聞いたりしますか。(3時間以上)	H29	40.2 (+5.9)	35.7 (+12.1)
		H28	42.0 (+7.7)	29.2 (+6.0)
5	普段(月~金曜日)1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式ゲームを含む)をしますか。(3時間以上)	H29	26.6 (+9.3)	33.8 (+14.4)
		H28	23.6 (+8.5)	24.8 (+7.6)
6	普段(月~金曜日)1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか。(2時間以上)	H29	16.1 (+5.3)	42.5 (+12.6)
		H28	10.1 (+1.1)	31.1 (+3.3)
7	家の人と学校での出来事について話をしていますか。	H29	76.7 (-2.4)	72.3 (-4.8)
		H28	76.0 (-4.5)	70.0 (-5.9)

※小・中学生の平日のテレビやビデオ等の視聴, ゲーム等をする時間, 携帯電話やスマートフォンの使用時間の中で3時間以上テレビやゲームをする割合については依然として県よりも高い数値を示しています。「朝食を食べること」「しっかりとした睡眠をとること」「テレビ・ゲーム・携帯電話(スマートフォン)・メールやインターネット」の利用時間については学校と家庭(P T A)が連携し, 児童生徒の健やかな成長につなげられるようにすることが求められています。

(3) 学習時間等

[単位%, ()は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校	
1	家で, 自分で計画を立てて勉強をしていますか。	H29	60.6 (-8.2)	47.0 (-9.3)	
		H28	64.0 (-3.3)	45.7 (-6.5)	
2	家で学校の授業の予習をしていますか。	H29	45.3 (-2.6)	40.9 (-3.7)	
		H28	46.9 (-3.4)	35.5 (-9.2)	
3	家で学校の授業の復習をしていますか。	H29	56.4 (-9.7)	53.8 (-9.9)	
		H28	62.6 (-5.4)	57.5 (-5.9)	
4	学校の授業以外に, 普段(月~金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(塾を含む)。	2時間以上	H29	22.4 (+0.6)	24.3 (-6.7)
			H28	19.9 (-0.6)	27.7 (-1.2)
		1時間以上	H29	34.0 (-9.6)	34.8 (-2.1)
			H28	34.6 (-9.3)	36.6 (-0.7)
		30分以上	H29	29.2 (+4.0)	19.5 (+0.5)
			H28	33.7 (+7.4)	17.8 (-1.9)
		30分以下	H29	12.7 (+5.7)	11.9 (+3.4)
			H28	10.1 (+2.9)	9.9 (+1.3)

5	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらい の時間、勉強をしますか。(小：2時間以上，中：3時間以上)	H29	17.6 (-3.8)	9.8 (-7.2)
		H28	13.6 (-7.5)	11.2 (-4.2)
6	学習塾（家庭教師含む）で勉強していますか。	H29	41.1 (+3.3)	53.7 (-1.6)
		H28	37.2 (+0.6)	57.2 (+3.5)

※小・中学生とも昨年度同様に平日・週末の学習時間が県の平均値と比べて低い数値を示しています。学習時間が「30分前後」に集中しているということは、学校からの宿題を終えると家庭学習を終えてしまう児童・生徒が多い可能性があります。家庭での「自主学習の工夫」や発達段階(学年)に応じた学習時間を小中連携の中で位置づけていくことも大切です。「自分で計画を立てて学習する」「家で予習・復習をする」といった家庭学習の習慣化に結びつくように『家庭も学びの場』(東松島市教育委員会)の積極的な活用を進めて参ります。

(4) 自分を大切にしたいことや社会のルールを守ろうとする意識

[単位%, ()は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	自分にはよいところがあると思いますか。	H29	75.1 (-1.6)	63.9 (-6.1)
		H28	66.0 (-7.9)	61.6 (-6.6)
2	物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	H29	92.3 (-2.4)	93.1 (-1.1)
		H28	92.2 (-1.2)	95.3 (+1.2)
3	将来の夢や希望をもっていますか。	H29	86.7 (+0.7)	62.1 (-9.7)
		H28	89.3 (+3.7)	73.7 (+2.5)
4	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	H29	90.7 (-0.4)	91.8 (+0.5)
		H28	91.1 (-1.6)	95.3 (+3.5)
5	学校のきまり(規則)を守っていますか。	H29	94.6 (+2.5)	92.9 (-2.1)
		H28	86.2 (-5.5)	93.7 (-0.4)
6	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	H29	96.3 (+0.1)	90.0 (-2.6)
		H28	93.3 (-3.5)	96.6 (+2.9)

※「将来に対する夢や希望をもつこと」については、小学生が県の平均値をやや上回ったが逆に中学生は下回った。これから高校受験も含めて進路決定時期を迎える中学校3年生にとっては厳しい結果となり、進路指導の充実も含めた対策が必要である。「学校のきまり(規則)を守ること」「いじめのついでへの考え」については小学生が県の平均値をやや上回った。教育活動の中で児童・生徒に「自己存在感を与える」「自己決定の場面を与える」「共感的な人間関係(児童・生徒・教師・保護者・地域の人々も含めて)の構築」といった生徒指導の三機能をふまえた継続的な指導を行うことが大切である。

5-3 生活習慣と学力の関係について

(1) 生活習慣（就寝時間）と学力の関係

校種		平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	同じ時間に寝る	75.7	58.6	76.9	42.4
	同じ時間に寝ない	53.9	37.0	64.8	26.5
中学校	同じ時間に寝る	72.1	67.8	56.4	40.1
	同じ時間に寝ない	60.9	51.5	37.0	24.5

※小学校・中学校ともに寝る時間が決まっている児童・生徒の正答率は、寝る時間が不規則な児童・生徒に比べて高くなっています。

(2) 生活習慣（起床時間）と学力の関係

校種		平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	同じ時間に起きる	76.2	56.7	76.0	42.0
	同じ時間に起きない	55.0	33.3	53.3	25.0
中学校	同じ時間に起きる	72.4	66.9	55.9	39.0
	同じ時間に起きない	46.9	27.8	21.8	21.1

※小学校・中学校ともに起床時間が決まっている児童・生徒の正答率は、起きる時間が不規則な児童・生徒に比べて高くなっています。

(3) 朝ごはんとの関係

() は昨年度の割合

校種	朝食を毎日食べていますか。	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	食べている	74.0 (69.4)	56.7 (53.3)	75.7 (73.3)	41.3 (41.8)
	全く食べていない	65.8 (37.8)	48.6 (28.3)	60.0 (33.3)	26.1 (19.2)
中学校	食べている	77.1 (76.9)	66.8 (67.5)	55.2 (60.0)	39.3 (42.7)
	全く食べていない	62.5 (69.7)	66.7 (46.0)	42.2 (42.9)	33.3 (20.0)

※朝ごはんを毎日食べている児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に比べて高くなっています。朝ごはんをしっかりと食べることが1日の生活のリズムをつくるとともに確かな学びにもつながることがわかります。

(4) テレビやビデオ, DVD等の視聴時間と学力の関係 ()は昨年度の割合

校種	普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ, DVDを見たり聞いたりしていますか。	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	1時間以上, 2時間より少ない	73.0 (66.5)	56.7 (54.3)	73.9 (74.2)	38.7 (45.6)
	4時間以上	67.6 (64.2)	48.0 (42.2)	70.2 (67.4)	37.1 (34.9)
中学校	1時間以上, 2時間より少ない	73.2 (78.1)	70.8 (67.0)	60.2 (60.5)	42.2 (42.4)
	4時間以上	63.6 (68.2)	59.4 (57.4)	43.2 (47.5)	31.0 (33.5)

※時間を決めテレビ等を視聴している児童・生徒の正答率は, そうでない児童・生徒に比べて高くなっています。家庭での視聴時間を決めて生活することが大切です。

(5) ゲームをする時間と学力の関係 ()は昨年度の割合

校種	普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式ゲーム含)をしますか。	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	1時間より少ない	80.0 (70.3)	61.9 (53.1)	80.1 (73.3)	42.7 (41.7)
	4時間以上	65.6 (62.8)	47.9 (45.0)	68.4 (66.8)	35.5 (34.6)
中学校	1時間より少ない	74.7 (77.2)	69.0 (67.8)	57.8 (61.1)	40.9 (41.2)
	4時間以上	64.1 (66.3)	57.8 (53.3)	43.1 (44.3)	31.7 (32.7)

※時間を決めて, 節度を守ってゲーム等をしている児童・生徒の正答率は, そうでない児童生徒に比べて高くなっています。

(6) 携帯電話やスマートフォンを利用する時間と学力の関係

校種	普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンを利用しますか。	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	持っていない	74.3	56.1	75.3	39.9
	1時間より少ない	73.3	49.5	75.6	36.6
	4時間以上	64.1	43.3	64.4	29.8
中学校	持っていない	70.5	63.6	52.1	39.0
	1時間より少ない	69.7	58.4	57.5	38.1
	4時間以上	66.3	63.3	46.7	33.0

※携帯電話やスマートフォンを, 時間を決めて, 節度を守って利用している児童・生徒の正答率は, そうでない児童生徒に比べて高くなっています。

5—4自分を大切に思う思いと学力の傾向について

(1) 自分を大切に思う気持ちと学力の関係

() は昨年度の割合

校種	自分にはよいところがあると思いますか。	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	当てはまる (思う)	74.1 (71.6)	57.3 (56.7)	77.1 (77.5)	41.7 (45.2)
	当てはまらない (思わない)	69.5 (61.1)	53.6 (41.1)	67.6 (60.1)	37.3 (32.4)
中学校	当てはまる (思う)	70.3 (72.6)	63.6 (62.9)	53.5 (54.3)	36.9 (37.3)
	当てはまらない (思わない)	66.5 (72.4)	57.1 (59.3)	42.7 (50.5)	32.4 (36.9)

※自分を大切に思う気持ちをもっている児童・生徒の正答率は、そうでない児童・生徒に比べてやや高くなっています。

(2) 将来の夢や目標をもつことと学力の関係

() は昨年度の割合

校種	将来の夢や目標をもっていますか。	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	当てはまる (もっている)	73.2 (68.8)	55.6 (51.4)	75.2 (72.7)	39.9 (40.0)
	当てはまらない (もっていない)	67.0 (65.0)	52.5 (46.0)	71.1 (69.7)	41.9 (43.5)
中学校	当てはまる (もっている)	70.1 (76.1)	64.8 (65.8)	52.5 (59.1)	36.8 (41.2)
	当てはまらない (もっていない)	67.2 (74.3)	60.2 (63.5)	49.3 (51.6)	34.6 (37.1)

※将来の夢や目標をもっている児童・生徒の正答率は、そうでない児童・生徒に比べておおむね高くなっています。

6 「確かな学力」の育成に向けた本市の取組

本市では、宮城県教育委員会が示している「学力向上に向けた5つの提言」(※)を踏まえ、児童生徒の「確かな学力」の向上を図るため、次のような取組を行っております。

(1) 授業改善に向けて

- ① 全国学力・学習状況調査や CRT 検査の分析及び普段の授業から見られる課題等をもとに、児童生徒の実態把握に努め、学力向上に向けた具体策を構築し、その徹底と継続に努めます。
- ② 各中学校区の小・中連携（矢本一中、矢本二中、鳴瀬未来中の小・中学校連携）による授業参観や学力向上の研修会を行い、小・中学校の円滑な接続に努めています。

- ③ 大塩小学校は平成 27 年度から 3 年間、県教育委員会から学力向上研究指定校事業の指定を受けています。算数の授業づくりを中心とした研究を、県内外の小・中学校に学力向上推進の取組として発信していきます。大塩小学校のこれまでの実践は、宮城県で策定した「算数・数学ステップ・アップ5」に実践例として紹介されています。
- ④ 県教育委員会と連携し、学力向上サポートプログラム事業に市内の3つの小学校を指定し、国語の学力向上を目指した取組を進めています。
- ⑤ 各学校で教科・テーマを決めて取り組んでいる学力向上に向けた校内研究を一層活性化し、外部指導者等を招聘するなどして教員の授業力向上に努めています。
- ⑥ 今年度は市内小・中学校の教員 11 名に教科等指導員を委嘱しました。教科等指導員は、市内小・中学校の学校訪問において授業参観や各教科分科会へ参加をしたり、児童生徒の学力向上に向けた具体的な取組について研修会を開催したりするなど、授業改善や教員の指導力向上のための、市の中心的役割を担っています。
- ⑦ 市内小・中学校教員の参加希望者を対象に「教師塾」を年間 10 回実施し、毎回多彩な講師による指導のもと、教員自らの授業実践力の向上を図っております。
- ⑧ 国語と算数・数学の到達度テスト（CRT 検査、対象：小2～中3）を実施し、市内小・中学校長会との連携によりその結果分析を市内小・中学校教務主任が行い、教務主任者研修会を通して授業の工夫、改善策をまとめ、各校の授業づくりに生かしています。
- ⑨ 県教育委員会に加配教員の配置拡充を要請し、TT 指導や少人数指導など個に応じた指導体制工夫を図っていきます。
- ⑩ 主体的、対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）などの効果的活用により、教科の特性に応じた授業づくりを進めるとともに、新学習指導要領の完全実施に向けた年間指導計画の早期作成と自校化を進めていきます。
- ⑪ ICT 機器及び環境整備を進め、効果的な教材の開発と児童・生徒の興味関心を高める授業づくりに取り組んでいきます。

(2) 学習習慣の定着に向けて

- ① 中学校区ごとに、小・中学校が定期的に情報交換を行い、中学校区共通で学習習慣の定着について確認をし、指導の徹底を図っています。
- ② 宿題に加え、児童・生徒が自ら自主学習に取り組むことができるような課題の与え方を工夫し、家庭学習推進の啓発を図ります。
- ③ 家庭と連携し、児童・生徒の基本的な生活習慣の確立を目指した取組を強化します。特に、TV 視聴、ゲーム、携帯電話やスマートフォン等に費やす時間の削減に向け、PTA や地域と連動した取組を検討し、実践につなげていきます。

- ④ 学び支援コーディネーター事業により、「イトっ子学習会」を展開し、放課後や土曜・日曜、長期休業期間の児童生徒の学習をサポートしています。
- ⑤ 各家庭に配付しているリーフレット「家庭も学びの場ー望ましい生活習慣や学習習慣作りに向けてー」や児童生徒に配布している「学習の手引き」に基づき、家庭における生活習慣や学習習慣づくりの呼び掛けを行っています。
- ⑥ 中学校区ごとに、学校図書館司書補助員を配置し、各小・中学校の図書室の本の整理をしたり、貸し出しにおいてバーコードシステムを導入したりするなど、児童生徒がより本に親しみ、読書活動に取り組むことができるような環境整備に努めています。

(3) 志をもつ児童生徒の育成に向けて

- ① 生徒指導の3機能（自己存在感・自己決定・共感的理解）を生かしたあたたかな人間関係づくりや学級づくりを進め、一人一人が大切な存在であるという人権教育の視点にたった教育を展開し、将来に夢と希望を持ち、志高く生きる児童・生徒の育成に努めます。
- ② 市内の中学校区ごとに展開している「志教育」では次のような取組を行っています。
 - ・あったかイトころ運動（「あいさつ」「清掃」「ゴミ拾い」）の継続的な実施と実践発表会（中学校区ごとに年1回）の開催。
- ③ 各学校では、確かな学力を支える健康な体づくりと体力の向上に努めています。
 - ・「体力・運動能力調査」の結果考察に基づく様々な体力づくり運動の取組。
 - ・「はやね・はやおき・朝ごはん」の推奨。
 - ・子どもの健康な体づくりに向けた食育の推進。
- ④ 地域ぐるみで児童生徒を育てる教育活動の充実を図っています。
 - ・コミュニティ・スクールの推進（現在、実施している学校を中心に、平成30年度までに市内全小・中学校をコミュニティ・スクールに指定する予定で準備を進めています）。
 - ・協働教育（プラットフォーム）推進事業の充実。
 - ・職場体験学習等を中心としたキャリア教育の充実。

家庭も学びの場～望ましい生活習慣や学習習慣づくりに向けて～

<家庭学習の7つのつぼ！>

東松島市学力向上推進委員会

- 1 宿題（課題）以外の学習メニューを自分で考える。
- 2 自主学習ノートをつくる。
- 3 何度も繰り返しやってみる。
- 4 いろいろなことに興味をもって、毎日コツコツ続ける。
- 5 絵や図、グラフなどを取り入れる。
- 6 覚えていないところ、苦手なところを見逃さない。
- 7 1週間のサイクルで自主学習ノートを振り返り、自分のがんばりを見つめる。

<学習を定着させるには復習が大切！>

- 1 学校で学んだことを、家庭で反復すると忘れる量は少なくなります。
- 2 復習は、学んだ直後の方が効果は高くなります。

※「学力向上に向けた5つの提言」

（平成25年10月 宮城県教育委員会）

1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子どもの声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

2 子どもをほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価の一つです。

3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

5 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は授業での理解を早めます。何よりも、保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけにつながります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の

手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

理 解・継 続・自 校 化

(学力向上に向けた5つの提言の充実に向けた「3つの柱」)

(平成29年10月 宮城県教育委員会)

【理 解】

- それぞれの5つ提言の意味を確認しましょう。
(その中に含まれた意味も確認しましょう)

【継 続】

- 学校生活のあらゆる場面で継続しましょう。
- 終結まで確実に終える授業を継続しましょう。
- 9年間の継続を図りましょう。

【自 校 化】

- 自校のよさと課題を踏まえた自校化をはかりましょう。

7 保護者、地域の皆様へ

今回の調査からも、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、知識の活用を図る指導の充実が、学力向上にとって極めて重要であることが分かりました。

また、家庭における「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣はもとより、テレビの視聴時間、ゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンを利用する時間について節度をもつことや、計画的に家庭学習をすることが、本市の学力向上に大きく寄与するものと考えられます。

児童生徒の確かな学力の定着を図るために、各家庭では、以下のような取組をお願いします。

- 基本的な生活習慣（はやね、はやおき、朝ごはん）や家庭学習習慣（学年に応じた内容、時間を決めた取組等）を身に付けさせましょう。
- テレビ視聴時間やゲーム、携帯電話・スマートフォン等の利用については、お子さんとしっかりルールを作りましょう。
- 家庭での読書をさらに勧め、1つのことに集中する姿勢を身につけるとともに、文字にふれる機会を大切にしましょう。
- 様々な場面において、子どものよさを見だし、本気でほめてあげましょう。
- 郷土の自然や文化に触れる幅広い体験をさせましょう。

自尊感情を養いながら、将来への「志」をもたせることが、学力向上の土台であり、学習習慣や生活習慣の確立に極めて重要です。

今後も、子どもたちに対して、家庭や地域の温かい見守り、お声掛けをお願いいたします。